

- (12)七月5日、木星が〔うし座 ω 〕星を掩蔽する。(星は 4.8 等の肉眼星)
 之れは1914年以來の珍現象であるが、見える地方は殆んど太平洋中のハワイ島に限られてゐる。時刻は

潜入 午後11時12分、位置角(北より) 93°

出現 翌午前 0 16 , κ (κ) 247° .

但し、星の光度が大きいからリクやキルソン山天文臺あたりの大望遠鏡で観測が出来るだらう。(此の地方では日出後だけれど)

- (13)八月5日、金星が〔B. D.+21°1109〕星を掩蔽する。(星は 8.6 等級)
 之れは南アメリカで見えるのみ。例へば、アルヘンチナ國コルドバでは

潜入 午後 7 時42分、位置角(北より) 50°

出現 κ 7 47 , κ (κ) 300° .

- (14)十一月27日、金星が〔てんびん座 ν 〕星に接近。(星は 5.3 等星)
 之れも、南太平洋では掩蔽が見えるのだが、南米では晝間になる。北米ローエル天文臺では午後10時30分頃、星が金星の北縁から $3''$ ほど離れて見える。

第四回汎太平洋學術會議

去る1926年(大正十五年)の秋、我が東京で開かれた第三回汎太平洋學術會議の事は當時の「天界」第69號第 533 頁あたりにも詳しく載せたものであるが、今1929年には此の會議の第四回會合が南洋オランダ領ジャバで開かれる。

今年の會議は五月16日から六月五日まで決定された。之れは嘗て「天界」第79號第 432 頁にも報じた通り、五月9日の日食のこゝを始めから考慮した結果であつて、此の日食の觀測に参加する全世界の天文學者たちを、汎太平洋會議にも参加させるつもりで、其の便宜のために決定されたものである。しかし、今までに實行委員から公表されたプログラムについて見ると、會議の中には特に天文學者の興味を呼びさうな題目が甚だ少ない。

我が日本からは京都帝國大學の山本博士夫妻と東京帝國大學の早乙女博士
 が天文學關係として此の會議に加はる筈であるが、他の國々から來る天
 文學者は果して誰々であるか、今は未だ不明である。

今回の會議は

- 總裁** オランダ國殖民大臣、同國外務大臣、同國東印度總督。
名譽會長 オランダ領東印度の上院副議長
名譽副會長 オランダ領東印度の陸軍總指揮官、外 8 氏（東京の第三回會長櫻
 井博士を含む）
名譽會員 西ツヤバ州知事、外 46 氏（バタビアの帝國總領事三宅氏を含む）

我が日本國より參加する會員（ABC 順）

- | | |
|--------------|------------------|
| 東京帝國大學教授 | 林學博士 藤 岡 光 長 |
| 東北帝國大學教授 | Ph. D 畑 井 新 喜 司 |
| 徳川生物學研究所長 | 理學博士 服 部 廣 太 郎 |
| 東京地學協會主幹 | 貴族院議員子爵 保 科 正 昭 |
| 臺北帝國大學教授 | 理學博士 早 坂 一 郎 |
| 地質調査所技師 | 伊 原 敬 之 助 |
| 東京帝國大學教授 | 工學博士 伊 木 常 言 |
| 逓信省工務局長 | 稻 田 三 之 助 |
| 京都帝國大學教授 | 理學博士 郡 場 寛 |
| 東北帝國大學教授 | 理學博士 神 津 俣 祐 |
| 東京帝國大學教授 | 工學博士 鯨 井 恒 太 郎 |
| 中央氣象臺技師 | 國 富 信 一 |
| 主蠟官 | 理學博士 黒 田 長 禮 |
| 農林技師 | 農學博士 桑 名 伊 之 吉 |
| 東北帝國大學助教授 | 益 田 峰 一 |
| 東京帝國大學助教授 | 理學博士 松 村 瞭 |
| 京都帝國大學教授 | 理學博士 松 山 基 範 |
| 東京帝國大學教授 | 三 浦 |
| 文部省囑託 | 理學博士 三 好 學 |
| 京都帝國大學教授 | 理學博士 中 村 新 太 郎 |
| 臺灣總督府中央研究所技師 | 農學博士 中 澤 亮 治 |
| 滿鐵地質調査所技師 | Ph. D. 新 帶 國 太 郎 |
| 水路部技師 | 理學博士 小 倉 伸 吉 |
| 臺北帝國大學教授 | 農學博士 大 島 金 太 郎 |
| 東京帝國大學教授 | 理學博士 早 乙 女 清 房 |

京都帝國大學講師	子爵 田 中 阿 歌 麿
東北帝國大學講師	田 中 館 秀 三
農事試験場技師	農學博士 寺 尾 博
	侯爵 德 川 義 親
	同 夫 人
早稻田大學教授	理學博士 工學博士 德 永 重 康
東北帝國大學教授	理學博士 矢 部 長 克
水路部員	海軍少佐 岸 人 三 郎
徳川生物學研究所員	江 本
京都帝國大學教授	理學博士 山 本 一 清
	同 夫 人

實行委員としては

總務部 總長	バンドン工業院教授	J. Clay 氏
次長	バイテンゾルク市コム研究所長	O. De Vries 氏
首席幹事	バイテンゾルク植物園	H. J. Lam 氏
次席總幹事	軍醫官	H. J. T. Bylmer 氏
財務幹事	ツヤバ銀行員	H. M. Hirschfeld 氏

學術部

(1)物理學部 部長	バンドン地質測量局	A. C. De Jongh 氏
幹事	パタピヤ王立地磁氣象臺長	S. W. Visser 氏
(2)生物學部 部長	バイテンゾルク植物園長	W.M.D. Van Leeuwen 氏
幹事	バイテンゾルク動物博物館長	K. W. Dammerwan 氏
(3)農學部 部長	茶研究所長	J. J. B. Deuss 氏
幹事	バイテンゾルク農事研究所長	J. Th. White 氏

社交部 旅行接待係	バンドン火山研究所長	Ch. E. Stehn 氏
會場係	バンドン地質測量局	W. F. Gisoef 氏
出版係	バイテンゾルク農務部商業課長	J. Stroomberg 氏

會議の日割は

五月16日午前11時	パタピヤにて開會式
同 18日	バンドンにて部會(物理學部のみ)
同 20日より同 24日まで	バンドンにて各部會
同 25日	バンドンにて閉會式
五月14日より六月4日まで	諸種の視察旅行

因みに、次の第五回汎太平洋學術會議は、1932年頃、北米のカナダか、又は合衆國で開かれるらしい豫想である。